

## 平成 21 年度 県立並木高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	1 「つくば」とともに、「つくば」が持つ使命（ミッション）を共有した、未来を切り拓く人材を育成する学校 2 生徒一人ひとりを大切にするとともに、地域に信頼され、生徒に力（「社会力」「学力」「体力」）と夢を提供する学校 3 中等教育学校への移行がスムーズに進む学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
目指す学校像の具現化のため、開校した県立並木中等教育学校と連携し、「つくば」の持つミッションを共有し、過去のトレンドに拘ることなく、邁進した。特に生徒一人ひとりを大切にすることを実践し、地域に信頼された結果、入試の倍率も県 2 位という形に現れた。今後は、更に中等教育学校への移行がスムーズに進むよう、連携のためのチームを立ち上げ、具現化する必要がある。	1 意欲ある学校風土の醸成	① 人間として恥じることのない、知識を操作するための、人間力を培う教育 ② チャイムからチャイムまでの授業とシラバスを使った効果的な学習 ③ 教職員の意識改革 ア 過去のトレンドの払拭 イ 地域との連携	B	
	2 進路希望の実現、特に将来の夢を語る生徒の育成	① 個人面談の重視と進学ガイダンスの充実 ② 多様な進路情報の提供（たとえば、学校・学年発行のメールマガジンの充実） ③ 職業観・勤労観の育成	A	
	3 すこやかな心と体の育成	① 基本的な生活習慣の確立 ② 生徒会活動・学校行事等への一般生徒の参加意識を高揚 ③ 安全教育の推進（たとえば、自己防衛意識と自己管理能力を高める指導）	A	
	4 中等教育学校へのスムーズな移行 特に未来のトレンドを読む力の育成	① 全職員の共通理解と校内体制の充実 ② 広報活動の充実 ③ 小学生とその保護者等への説明会の実施	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 教務部	「つくば」がもつ使命（ミッション）を全職員が共有し、さらなる生徒の学力向上をめざす。	生徒にわかりやすい（徹底しやすい）シラバスを作り、シラバスを参考にした学習計画の立案を促すことで、生徒の自主的な学習態度を育成する。	B	・授業の工夫・改善のための職員研修、授業公開の機会を多くとるようにする。 ・シラバスをより実践的に利用するための方策。 ・中等教育学校移行にともなう組織の複雑化の中でいかに連携強化を図るか。
		50分授業の展開を再構築し、多様化した生徒に対応した授業（分かる授業・参加する授業・楽しい授業・実力がつく授業）の工夫改善を図る。	A	
		公開授業の奨励、積極的な職員研修（先進校視察等）、情報の交換・共有化を促す。	B	
	授業時間の確保と教務情報の提供に努める。	各教科間や、学年内の連携を強化し、授業交換を徹底させ、補填授業を充実させる。	A	
		チャイムからチャイムまでの授業の徹底を図る。	A	
		インターラクティブボード（情報表示装置）を有効に利用し教務情報を提供する。	B	
中等教育学校完成への移行期間 2 年目という事実を踏まえ、校内体制の見直しを図る。	生徒や評議員の意見を取り入れた学校評価システムを確立させる。	B		
	各部署・各教科・各学年の連携強化に努める。 中等教育学校との連携を強化し、移行がスムーズに推進するように校内体制の見直しを図る。	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
2 企画部	中等教育学校へのスムーズな移行と、中等教育学校のより良い運営に関することの企画・立案・実践などのとりまとめをする。	中等教育学校職員と高等学校職員の実務上の協力を促す。	B	B	並木高校・並木中等教育学校の職員間の意思疎通を促して協力体制を整え、中等教育学校としての総合的な指導力向上に貢献すること。
		科学教育に関することを充実する。	A		
		国際理解教育に関することを充実する。	A		
		部活動のあり方を再検討する。	B		
		高等学校と中等教育学校との交流授業の実現。	A		
難関大学受験を見据え、中等教育学校の受験指導力の向上をはかる。	B				
3 生徒指導部	基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い自己実現を目指す。	全職員で共通指導をする。	B	B	・服装指導において生徒会与連携をとりあって生徒の自主性を促したい。
		自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るようにする。	B		
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成する。	B		
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力をする。	A	A	
		中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力をする。	A		
		生徒事故の未然防止をする。	A		
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導を実施する。	A	A	
交通安全教育の徹底をする。		B			
自転車点検を実施する。	A				
4 特別活動部	部活動の活発化	中等教育学校の生徒も含めた部活動の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	B	B	・部顧問の適切な配置をはかり、学校全体で指導できる部活動を作りたい。 ・中等教育学校生と高校生の一休感を味わえる行事を考えた
		部活動における効率的な練習を推進し、県大会に出場する部を増やす。	A		
		部顧問の適切な配置を考え、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		
	主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A	A	
		中等教育学校の生徒も含めた新しい生徒会活動のあり方を前年度に引き続き模索する。	A		
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	A		
	学校行事の活性化	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A	A	
		中等教育学校と高等学校が一体化したかえで祭を作り出す。	A		
		中等教育学校と高等学校の同日開催となるスポーツデーを成功に導く。	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
5 進路指導部	適切な進路情報を提供し 進路意識の高揚を図る	進路室の整備と利用を促進する。	A	A	・進路室の使いやすさのさらなる増進 ・学年進路担当とのつながりを密にし情報のスムーズな流れを作る。 ・進路指導充実のための情報提供
		進学要覧の活用（HRでの使用と保護者への進路情報の提供）をさせる。	A		
		保護者面談時等を利用し、定期的な進路情報を提供する。	A		
	進路計画の作成	LHRで進路指導（各学年での到達目標を設定する）をする。	B	A	
		進路・生活実態調査を定期的に行い、生徒のその時点での状況を提供する。	A		
		進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むよう情報を提供する。	A		
	自己実現のための支援	早期に目標を見つけることが出来るように、進路ガイダンス等の充実を図る。	A	B	
		模試の情報収集と結果を指導に活用する。	B		
		学年との協力体制を確立する。	B		
6 保健部	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行う。	A	B	・学校保健計画の更なる検討 ・日常的保健室利用者に対する対応の検討 ・SHRでの日常的な学年行事と清掃監督者との時間調整の検討
		健康診断の結果、要治療者については早期治療を徹底する。	B		
		日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる。	B		
		校内の各組織と相談・連携し、性・薬物等の講話を年1回は実施する。	A		
		担任・教育相談室と連携を深め、心のケアを重視する。	B		
	委員会活動の活性化を図る。	B			
	校舎内の美化と安全に努める	清掃時間には可能な限り先生方に監督についてもらう。	B	B	
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する。	B		
		避難訓練を実施する。	A		
7 図書部	図書委員会の活発化	ローテーションによるカウンター業務（バーコードによる貸出と返却）。	A	B	・蔵書と設備の充実 ・学校図書館活用教育の推進 ・図書館報の記事の充実
		購入図書の選定と広報活動（「図書館報」の発行）。	B		
		定例役員会の開催。	B		
	図書館運営と図書の管理	購入図書の登録（バーコード入力）。	A	B	
		定期点検による図書の整理整頓。	B		
		図書館設備の充実。	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
8 渉外部	P T A活動の共通理解と 会員同士の親睦	P T A活動表・支部区分表の配付。	A	A	・各支部担当教員を 決めても各学年から 1名の教員を出すの が難しかった。 ・支部のお知らせも 回収先が様々で分か りづらい。
		学年・評議員の活動内容表の配付。	B		
		かえで祭・WRへの参加協力の呼びかけ。	A		
		広報誌の発行。	A		
		支部会の開催。	B		
		P T A連合会などへの参加。	A		
9 教育情 報部	授業における IT 活用	校内研修会を実施する。	A	A	・継続して情報モラ ルやセキュリティの 周知徹底について一 層の充実をはかる。 ・指導要録デジタル 化や情報処理ソフト の更新について研究 を重ねる。 ・視聴覚室をより活 用できるように整備 する。 ・ITを活用した広報 活動を継続しその方 法研究にも尽力する。 ・中等生の利用拡充 にえられるように 環境整備を継続して 行う。
		環境の整備（普通教室，特別教室）をする。	A		
		教科「情報」と他教科の連携をする。	A		
	IT 環境を活用した校務の 効率化	IT 活用のための機器の導入と利用普及をはかる。	A	A	
		校内サーバーの活用およびデータの共有をする。	A		
		教育情報ネットワークの活用促進をはかる。	A		
		成績管理システムを改善する。	A		
	IT 及び視聴覚環境の整備	ハードウェアの整備をする。	A	A	
		校内ネットワーク（LAN）の整備をする。	A		
		ソフトウェアの整備をする。	A		
		視聴覚室の整備（視聴覚機器など）をする。	A		
	IT 環境の安全な運用	ネットワークの安定的な運用に努める。	A	A	
		セキュリティの向上と迅速な対応をする。	A		
		個人情報保護に留意する。	A		
		情報倫理の確立に努める。	A		
IT を活用した地域や保護 者への広報活動の充実	インターネット・ブログでの学校紹介を充実させる。	A	A		
	メールマガジンを活用して保護者への広報活動を活発にする。	A			
中等教育学校の環境整備	中等教育学校の IT 環境の整備拡充をする。	A	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
10 教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応	欠席調べをして休みがちな生徒を把握する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談部及びSCの活動について周囲へのPRをさらに行う。</li> <li>各学年との連携を深める。</li> <li>引き続き欠席調べを行い、生徒の状況を把握していく。</li> </ul>
		週に1度の部会を持ち、情報交換を密にし、チーム支援の充実を図る。	B		
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	B		
	学年・保護者との連携強化	相談部の中に学年担当を決め、学年会の生徒動向の情報を共有する。	A	A	
		生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	B		
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	A		
スクールカウンセラー(SC)の活用	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する。	A	A		
	カウンセリングにおいて、SCと担任等との間の連絡調整を支援する。	A			
11 事務部	効率的な予算の執行に努める	将来を見通した教育環境の整備をする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成のために、更に努力する。</li> </ul>
		安全性を考慮した校舎内外の整備をする。	B		
		最小費用で最大の効果を上げる。	B		
	授業料等の口座振替不能者減少に努める	生徒を通して、引落金額の通知を配布して、保護者への周知を求める。	B	B	
		団体費の適正な予算執行に努める	収入・支出の内容を明確にする。		
	領収関係書類を確実に添付する。		B	B	
窓口業務・電話の応対等の接遇態度に心がける	窓口業務をする中で、常に不審者対策にも心掛ける。	B	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
1 2  第 1 学 年	高校生として規律のある基本的 生活習慣の育成(生活指導)⇒ 学校生活の基本である基本的生 活習慣を早く確立させ、校訓の 精神である自制・自律・自尊の 精神を身につけた生徒を育成す る。	教員と生徒が信頼関係を築き、生徒が学校に登校したくなる雰囲気づくりを徹底する。	A	A	・基本的生活習慣の 育成を2年次におい ても継続させるため に、一層学年団で学 年集会や面談等をと おして徹底させてい きたい。また、家庭 学習の習慣づけも将 来の進路と関連付け ながら根気強く指導 していきたい。 ただ、生徒がやらさ れているという受け 身の姿勢から自ら学 ぶという姿勢を植え 付けさせたい。
		遅刻カードの導入と家庭との連携を図った事後指導の徹底による遅刻の減少をはかる。	A		
		清掃を徹底させ、自分たちで学校生活の環境を整備させる。	A		
		朝の立哨指導により挨拶・服装指導・頭髪指導の徹底を図る。	A		
		生徒の状況を観察するため面談の実施による問題行動の早期発見をする。	A		
		学年集会・道徳などを通じて並木高校生としてプライドを持たせる。	A		
	定期的な学年だよりを発行することによって生徒指導の一助とする。	A			
	家庭学習の習慣化と基礎学力の 向上(学習指導)⇒日々の授業 を大切に、日々の家庭学習の 習慣を身につけた生徒を育成す る。	家庭学習記録表の提出させることによる家庭学習の習慣化を図る。	B	A	
		週末課題を提出させることによる家庭学習の習慣化を図る。	B		
		定期テスト前スタディーチェック実施による基礎学力を養成する。	A		
		土曜学習会の活用による授業時間の確保と学力向上を目指す。	A		
		課外や到達度テスト実施による学力の向上を目指す	A		
小論文の有効な指導計画を実施する。		A			
英国数の基本を徹底させ、応用力の養成を図る。	A				
生徒が自ら考え、選択できるよ うな進路指導の実現(進路指導) ⇒自分の生き方や職業選択を考 えさせ、生徒一人一人がそれぞ れ適した進路選択ができるよう に導いていく。	自分史や適性検査の実施による自己理解を促進する。	B	B		
	進路講演会等により進路意識を覚醒させる。	B			
	オープンキャンパスへの参加・大学見学会等による進路意識を高揚させる。	A			
	マイフューチャーの実施により社会観・職業観を育成する。	A			
	面談等を活用して生徒の適切な文理選択をサポートする。	A			
	定期的な学年だよりを発行することによって進路指導の一助とする。	A			
その他 充実した高校生活を送らせる。	部活動への参加推進をする。	A	A		
	生徒会活動への参加推進をする。	A			
	学校行事への積極的参加推進をする。	A			
	中等教育学校と連携した教育活動に対する協力体制の確立をする。	B			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第2学年	個性を伸張させ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育てる(生活指導)⇒校訓「自制(自分勝手な気持ちを抑えること)・自律(自分に厳しくあること)・自尊(自分にプライドを持つこと)の実践	教員と生徒が信頼関係を築き、生徒が学校に登校したくなる雰囲気づくりをする。	A	・2学年として年間を通して生徒が登校しやすい雰囲気づくりができたことや、学年の教員が連携をして生徒指導に熱意を持って取り組んだ点は評価できる。ただし、中だるみの時期に充分に対応しきれなかった。 ・学年全体としては素直で真面目な生徒が多い点を生かし、今後は個々の生徒の個性を伸張させ、並木高校生としての自信とプライドをもてる生徒を育てたい。
		遅刻カードの導入と家庭との連携指導の徹底により遅刻・欠席を減少させる。	B	
		朝の立哨指導や学年集会などを中心とし、挨拶・服装指導を徹底する。	A	
		生徒の状況を観察し、問題行動の早期発見をするため、学年全体で面談を実施する。	A	
		部活動・生徒会活動・学校行事への参加を推進する。	B	
		中等教育学校と連携した協力体制を確立する。	A	
	「総合的な学力」と、「社会力」「体力」をバランスよく身につけた生徒を育てる(学習指導)⇒日々の授業を大切に、日々の家庭学習の習慣を身につけた生徒を育てる	1時間1時間の授業を大切に、わかる授業を展開し、授業内容の充実を図る。	A	・また、文理混合クラスの設置、修学旅行など学年としての新しい試みにチャレンジした。生徒は修学旅行を経験することによって大きく成長し、自分たちの進路実現に向けて意識も高まってきている。この意識をもっと高めるために学年の教員団が一致団結して生徒の進路をサポートしていきたい。
		週間家庭学習記録表の提出による家庭学習を習慣化させる。	B	
		国数英週末課題の実施により家庭学習を習慣化させる。	A	
		土曜学習会の活用より、授業時間を確保し、学力向上に資する。	A	
		課外や到達度テストの実施により、学力の向上を目指す。	A	
		小論文の効果的な指導をする。	B	
	自分自身を理解した上で、目標に向かって努力をすると同時に、自らの進路についての確かな選択ができる生徒を育てる(進路指導)⇒自分の目標を持ち、自分の長所を理解することで、将来への夢に向かって突き進む	英数国の上位層を伸ばし、下位層に対するケアも充実させる。	A	
		学部学科研究等を通し、進路の方向性を見つめ、進路意識の向上を図る。	A	
		進路講演会等を通して進路意識を覚醒する。	A	
		オープンキャンパス・大学見学会等全員参加による進路意識の高揚をはかる。	A	
		マイフューチャーの実施による社会観・職業観を育成する。	A	
		進路講演会・面談等を活用して生徒の適切なコース選択をサポートする。	A	
	修学旅行に対する取り組みから達成感を獲得する(全体的な指導)⇒生活指導、学習指導、進路指導を充実させるために修学旅行を大いに活用し、高校生活の充実を図る	志望理由書及び受験科目研究などによる目的意識の向上を図る。	A	
		修学旅行を通じて集団生活、仲間の大切さを学ぶ。	A	
		修学旅行に関する事前学習と関連学習を充実させる。	A	
修学旅行に関する学習や研究発表を通じて自ら学ぶ姿勢とプレゼン能力の育成を図る。		A		
	修学旅行におけるフィールドワークを通じて自分の進路や職業についての意識を深める。	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
1 4 第3学 年	進路実現のため最後まで絶対に諦めさせない(進路指導) ⇒一人ひとりが進路実現に向け、自分の限界まで努力し続けることにより、諦めずに努力することの大切さ、夢を追求することの素晴らしさ、周りの人への感謝の気持ちなど様々なことを学びながら、人として一層成長する機会とする	模擬試験を受けてのデータ分析会の充実	A	A	・学習時間は全体が飛躍的に伸ばすことができ朝・夜課外の実施によりプライトホールの利用も定着した。定期的な模試のデータ分析を実施し各生徒の状況を学年全体で把握し、諦めずチャンスを生かす意識を持たせた。 ・様々な機会を通して、総合的な人間力の向上を訴えてきた結果、個々の成長が見られた。 ・行事等においては、最上級学年らしく積極的に参加し下級生の模範となっていた。 特別指導数は昨年比激減したが、今まで厳しくしてきた服装等の指導はやや課外が残る結果となった。
		進路講演会の実施	A		
		各進路別ガイダンスを実施	A		
		学年集会を適時に実施	A		
		面談の充実	A		
		HRや学年便りを利用しての入試システムの理解させる	A		
	更なる学力向上のための環境と指導の充実(学習指導)⇒授業や課外、自学自習環境の充実を通して、できるだけ多数の生徒が進路実現の可能性を広げられるような学力をしっかりと身につけさせる	分かる授業の展開	A	A	
		チャイム始業の徹底	A		
		家庭学習時間確保の徹底	A		
		朝課外・昼課外・夕課外・夜課外の充実を図る	A		
		自学自習のためのプライトホール利用を促進する	A		
	最上級生として模範となる行動の促進(全体指導)⇒服装容儀のみならず、部活動や各行事等においても、後輩の模範となるような行動をとり、積極的に並木中等と並木高校を牽引する存在を目指させる	学年メルマガの有効利用	A	B	
生徒会活動・部活動におけるリーダー的役割の奨励		A			
並木校生としてのプライドの育成		B			
服装頭髪指導の継続によりルールを遵守させる		C			
	遅刻指導等により時間への意識を高める	B			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
15 国語科	自発的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し、予習・復習の仕方・週末課題について細かに指導する。	A	B	・教科全体で問題や情報を共有する。 ・中等生への指導研修および中高間の連携強化 ・3年間を見通した指導計画の確立 ・問題演習のさせ方を工夫
		シラバスにより単元目標を提示し、それに合わせた授業・評価の工夫をする。	B		
		生徒が学習しやすいように問題演習の行い方を工夫する。	B		
	読解指導の深化	小説・評論の読解法について解説し、実際に使えるようにする。	B	B	
		古文の読解のポイントについて解説し、授業で実践する。	A		
	記述入試対応	設問に応じた答え方ができるよう、板上添削など授業の工夫をする。	B	B	
記述対策を早期に開始し、生徒の苦手意識を解消する。		B			
教員間の意見交換を積極的に行う場の確保	授業公開などを利用して、お互いの授業の改善を図る。	C	B		
	授業担当者間において、綿密な打ち合わせができるように意見交換の場を確保する。	A			
16 地歴公民科	シラバスの有効利用	年間目標を提示し、生徒自らが学習計画を立てられるように手助けする。	A	A	個々の生徒の能力を伸ばす学習活動は次年度も続けたい。ITについては、センター用の教材を購入し、十分に活用できた。
		さまざまな学習方法を提示し、生徒が自分にあった方法を選択できるように導いていく。	A		
	ITを活用した授業の実施	ITを活用した指導法についての研修会を実施し、実際に授業を行う。	B	B	
		有効活用できるソフトの作成をする。	B		
	学力向上及び指導方法の工夫	長期休業中及び平常の課外を充実させ、精選した小テストを実施する。	A	A	
		生徒一人一人の可能性を伸ばせるような指導方法を研究する。	A		
17 数学科	基礎・基本の定着と共に応用力の養成を図る指導	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、授業展開や説明方法を工夫する。	A	A	評価Bのついた項目を評価Aに引き上げていくこと
		週末課題の提出を徹底させ、繰り返し復習することで、基礎・基本を全員に定着させる。	A		
		難易度別の課外授業や、個別指導により、発展的内容に挑戦しようとする生徒を育てる。	B		
	学習意欲を喚起する指導	家庭学習における予習の習慣化と、教科書を中心とした学習の重要性を認識させる。	A	A	
		上位者の掲示や適切な出題難易度により、到達度テストに向けての自主的な学習を促す。	A		
		定期テストや模擬試験に向けて各自の目標を設定させ、積極的に取り組ませる。	B		
	個に応じた指導	習熟度別クラス編成により、生徒の理解度に応じた授業展開や問題演習を行う。	A	A	
		普段の授業やテスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。	A		
		希望者への課外授業（早朝・放課後・長期休業中等）の課外授業を充実させ、成績不振者への補習も行う。	A		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
理科	生徒が自ら学習するよう な指導	定期テストや模擬試験に向けて目標を設定し、積極的に取り組む姿勢を育成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上級学校への進学を意識した戦略的な授業実践。</li> <li>・ 中等教育学校への移行に伴う最適な授業編成と人材配置。</li> </ul>
		学習プリントや副教材により家庭学習における予習の習慣化を図る。	B		
		シラバスを基に学習計画をつくり、生徒が自ら予習・復習するような指導に努める。	B		
	学力向上	実験化や観察を多く取り入れ、分かる授業の工夫と展開を心がける。	A	A	
		担当者間で意見交換を行い、互いの授業の改善を図る。	A		
		生徒の実態に即した課題を出し、家庭学習の習慣化を図れるようにする。	A		
	個に応じた指導	授業や定期テスト前などに、生徒が質問しやすい雰囲気や環境を整える。	A	A	
		小テストや学習プリントなどにより到達度の確認を図る。	B		
		習熟度別指導など理解度の違いに応じた個別指導を行う。	A		
		希望者には放課後・長期休業中の課外授業を充実させ、成績不振者への補習も行う。	A		
保健体育科	体力の保持増進	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢を育成する。	A	B	授業の展開の仕方について(中等完成年度になると授業が入らなくなってくる)
		体づくり運動、特に筋力向上プログラムの効果的な実践をする。	B		
		12分間走を充実させる。	B		
	運動技能知識の理解及び 修得	技能知識の理解をさせる。	A	A	
		運動技能の修得をさせる。	B		
		ルールの理解をさせる。	A		
	スポーツマンシップの育 成	規律ある行動を促す。	A	A	
		あいさつを励行する。	B		
		マナー、ルールを遵守させる。	A		
	保健学習の充実	現代社会と健康の理解をさせる。	A	A	
		生涯を通じる健康の理解をさせる。	A		
		社会生活と健康の理解をさせる。	B		

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
20 芸術科	音楽	芸術的表現技術の向上	基礎的技能を身につけ、自己の考えを練り思考する過程を重視した指導をする。	A	A	演奏形式の実技でステージマナーや技術の向上を学習できた。
			様々な表現手段を提示し、各自の表現に合った技術を習得させる。	B		
		鑑賞教育の充実をはかる	音楽の諸要素による変化や多様な表現に関心を持ち、イメージできるようにする。	A	A	
		心の教育を目指す	幅広く音楽文化の表現を理解し尊重する心情を育てる。	A	A	
			美しいものへの感動を通して自己を高めさせる。	B		
	美術	芸術的表現技術の向上	自己の考えを練り、思考する過程を重視する。	A	A	・途中であきらめさせない粘り強さをつける。 ・道具類を充実させる。
			様々な表現手段を示し、各自の表現に合った技術を習得させる。	A		
		鑑賞教育の充実をはかる	様々な分野の鑑賞資料を提示する。	A	A	
インターネット等を活用し、主体的に鑑賞にかかわるよう指導する。			A			
国際的文化に目を向け、理解を深めさせる。			B			
心の教育を目指す		表現を通じて、自己の内面との対峙を目指す。	A	A		
	美しいものへの感動を通して自己を高めさせる。	A				
21 英語科	将来につながる基礎学力の定着と個に応じた指導	生徒に予習→授業→復習の流れを確立させ、教科書を中心とした基礎・基本の徹底を図る。	B	A	・適切な助言や課題を提示し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 ・6年間の流れを考慮したシラバスを作り、並木の英語教育の確立を目指す。	
		小テストを実施し、結果を分析し、理解不十分であった生徒への対応を行う。	A			
		生徒のレベル毎に応じた課題の提示、進捗状況の確認、助言を行い、継続させる。	A			
	自律的な学習を身につけさせる指導の工夫	LL教室を活用し、生徒の興味を異文化・異言語に広げる授業を行う。	A	A		
		IT、書籍、新聞、TVの語学講座等各種メディアを活用した生徒の自主的な英語学習を奨励する。	B			
		各種英語検定試験、ALTとの交流、教師への質問を積極的に促し生徒が自ら学ぶ姿勢を養成する。	A			
	教員間の意見交換を積極的に進める場の確保	よりよい教授法を求めて、意見交換を行い、連絡を密にして、お互いの授業の改善を図る。	A	A		
		外部の研修会へ積極的に参加し、校内での報告会を行い、情報の共有に努める。	A			
		各学年の取組みを報告書にまとめ全体での意見交換の場を設けてよりよい方法を模索する。	A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
22 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	B		・実習内容の精選  ・学んだ成果を地域を含めた学校外で生かすことのできる指導	
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	B			
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A			
	科学的な理解と技術の習得	生活を科学的にとらえる授業を展開する。	B			
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する。	A			
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	B			
	生活の場での実践力の育成	ホームプロジェクトを実施し、課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける。	B			
		家庭クラブ活動や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる。	C			
		生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する。	B			
23 情報科	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。	A	A	・TTで授業を行っているので、生徒の課題を一つ一つ解決する事ができるのでよい。来年度もTTで行えるようにお願いしたい。	
		情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う。	A			
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	A			
		基本的な用語や概念については、試験を実施することによって定着させる。	B			
	情報倫理の育成	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	A			A
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	B			
		人と人との関係性を重視した指導を行う。	A			
	他教科や中等教育学校との連携	進路決定のプロセスにITを活用できるようにする。	A			A
		学校行事とリンクした実習を取り入れる。	A			
他教科や中等教育学校との連携をいろいろな場面で試みる。		A				

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	学年	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
総合的な学習の時間	1年	道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養うことを目的とする。また、計画的、発展的な指導によって道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。	テーマを設定し、学年集会形式によって学年主任をはじめとして学年全体による指導を通じて道徳的価値観を身につけさせる。	A	A	・学年スタッフ一丸となって集会やマイフューチャーセミナー等によって生徒に道徳性を身につけさせることができた。次年度は社会力も身につけさせたい。
			HR 単位において担任、副担の指導の下で道徳の授業活動を通し、様々な道徳性を養い、道徳的実践力を育成する。	A		
			社会人による職業講話（マイフューチャーセミナー）を設定し、良き社会人を目指させる。	A		
			校外学習等を計画し、自己を見つめ将来に対する展望と価値観を育成する。	A		
	2年	「キャリア探求」 生徒が将来の進路を考える際に、大学の学部学科や職業についてより深く研究し、生徒自らが自分の在り方・生き方を校外学習、フィールドワーク、進路関係の行事、修学旅行、授業などあらゆる機会を積極的に活用し、考えることにより、自らの目標を見据ながら進路選択できる力を育くむ。	情報などとタイアップして大学、自分が目指す学部学科について調べると同時に学部学科研究会などで自分の進路の方向性を探り、進路意識を高める。	A	A	・生徒が将来の進路において、大学の学部学科や職業についてより深く研究し、生徒自らが自分の在り方・生き方をフィールドワークなどの実際の行動を通して考えることにより、自らの目標を見据ながらキャリアを探求し、進路選択できる力を育み、身につけることができた。
			保護者や分野ごとの専門家を外部講師として招き、講話を聞くマイフューチャーなどの進路行事を通じて、自分の職業観を育む指導を実施する。	A		
			大学見学会やキャンパス見学会等に参加することにより、自ら情報を収集・計画を立てて行動する力を育て、併せて将来の進路について考えを深めさせる。	A		
			夏休みと修学旅行中にキャリア探求のためのフィールドワークに取り組み、自ら体を動かして、キャリア探求について考えを深めさせる。	A		
			各自沖縄に関する研究テーマを決定、情報の授業と協力し、全体発表を行なう。また、色々な教科との協力により沖縄についての興味関心を高める工夫をする。	A		
			志望理由書及び受験科目研究などで自分の志望大学を決定し、その志望理由を明確にし、その志望大学合格を達成するために何に取り組みばよいか、確認させる。	A		
	3年	「知を総合化し応用する」 ①自分の進路や職業について深く考えさせ、生き甲斐のある人生を実現しようとする意欲を促す。 ②現代社会についての多面的な学習を通して、生徒に力(社会力)をつけていく。	興味関心を発展させた教科(科目)研究を通して、個人の知識を伸ばしたり、思考力を鍛え上級学校に対応できるように育成する。	A	A	・教科研究を通し上級学校に対応できる思考力を鍛え、進路指導等を通し社会力をつけさせることができたが、もっと早い時期に本気で自分自身を見つめさせることができるかが課題である。
			進路説明会を実施し、志望校を比較・検討することによって、進路意識の高揚を図るとともに、より現実的な志望校決定の機会とする。	A		
文化祭終了・部活動引退の時期(6月中旬)に、進路講演会を計画し、「高校生から受験生へ」の意識付けとしての講演会を行う。			A			
計画的に小論文の書き方を指導する事により、物事に対しての自分の考えを整理し、論述する事ができるようにする。			A			

評価基準 達成状況 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

